



HTF(human tubal fluid)

「胎生哺乳類」

名誉院長 西 田 敬

見て来た訳ではないが、石狩の原野の流れに遡上して来た鮭は産卵する。流れの水は有精卵を包み、育む。胎生哺乳類の一員だが、ヒトの子を最初に養うのは母乳や胎盤循環血流ではなく、女性の卵管細胞の分泌液、詰り、卵管液 (human tubal fluid) という組織分泌栄養液である (histiotroph)。この卵管液で1週間ほど栄養され、卵割で数を増した後に受精卵は、漸く、子宮内に到達する。子宮内膜が増殖期と分泌期に分かれる事は大概の医学生は知っているが、扱、其の分泌期内膜は何を分泌する？と問えば思案投げ首、先ず、9割

は答えられない。英語では簡単にuterine milkとも云うが如く、是またbabyの栄養分。早く滋養豊富な胎盤循環血流に塗りたいが、俟て暫し。血流は酸素を含む。酸素は本来、酸化作用(細胞毒性)が強い。酸素をエネルギー代謝に利用するには酸化毒性を中和する為のscavenging enzymeを要する。癌細胞は細胞呼吸でなく嫌氣的にエネルギーを獲得する。然るに、人類は酸素呼吸を遮断すれば死滅する。何時から酸素に縋るようになつたのか。抑々、46億年の地球年齢で酸素に馴染んだのは此の5億年程度。権威ある学術誌Natureに拠れば、地球の大気を20%もの酸素が占めるように為ったのは、氷河期の解凍で稀少元素osmiumに封入された酸素が大気中へ放出された為である。卵子から受け継いだ潤沢なmitochondriaの存在にも拘わらず、接合子のエネルギー獲得法はfirst trimesterの期間を通じて卵管組織液の嫌気性解糖である。好気性解糖は胎盤循環の確立後の栄養獲得法で、血流で運搬される栄養 (hemotroph) である。

